
あの日まで.....

ななじゅうご

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あの日まで……………

【コード】

N8780B

【作者名】

ななじゅごう

【あらすじ】

6年前の春。蘭や新一たちが5年生のときの小さな話。あの日まで、あと……………

あと11日

(どっしょよう……何にしよう……)

蘭はずっとそのことばかり考えていた。授業中もそんなことばかり考えていたので、先生の話なんてぜんぜん頭に入っていない……

6年前の春。

蘭や新一たちは小学5年生になったばかり。今年も2人は同じクラスになり、新しいクラスにもようやく慣れてきたころだったが……

2

蘭はなるべく誰にも言いたくない、密かな悩みがあった。

自分だけでなんとかしたい。という思いがとても強かった……

今考えると、なんだか恥ずかしい話かも。

高校2年の蘭はそう思ったが、どうもこの時期が来ると、あのことを思い出してしまう……

あの日まで、あと111日。

あと11日（後書き）

《あの日》

それがいつの日のことか、もちろん分かりますよね??..?

《あの日》まで、う話くらいは話を作りたいなあ。と考えております!
感想など待ってまゝです

あと4日

ゴールデンウィークに入ったある日。

蘭と新一はクラスの友達と遊んで、お昼に昼食を食べるために一緒に帰宅していた。

そんな時、蘭はさりげなく新一に質問した。

「ねえ新一…新一ってホームズ好きなんだよね？」

「あつたりめーだろ！なんでそんなこと聞くんだよ？」

「じゃあさじゃあさあ…：…ホームズの物で欲しい物とか、なんかなあ？例えば本とか！…そういうやつ！！！」

「本は全部あるよ！ホームズのグッズは父さんが持つてるからほとんどあるぜ？…つーか本当になんでそんなこと聞くんだよ、蘭！ホームズの本、読んでーのかあ？それだったら…」

「読みたくないよ！！！推理オタクがうつるからヤダっつっ！！！！！！！！！！」

(そこまで否定しなくてもいいじゃねーかよ…)

新一は内心シヨックだったが、面には出さなかった。

「それじゃあね、新一！」

「おう！」

(それでなんだったんだよ…今の蘭の質問…)

その後、蘭は家に帰ってから、米花駅前のお店が並ぶ通りに出かけた。しばらくウインドウ・ショッピングをしたが、なかなかいい物がない……………
疲れてしまった蘭は、近くにあったベンチに座って休憩することにした。

「青子？」

その時、蘭は急に話しかけられて、ものすごくビックリした。しかも見知らぬ男の子だったので、なおさらだ。

「ご…ごめんなさい！青子じゃねえ！人違いだった！！あの…ビックリさせちゃった？」

「あ、大丈夫だよ…」
つい暗くなっちゃった…蘭は後になってから後悔した。なんか疲れちゃったからなあ……………

「なんか…元気ねえ感じだな？どうしたの？」

この男の子…あたしのちよっとの表情見ただけで、あたしの気持ちに分かるなんて…すごい……………

「あのね…私の友達…男の子なんだけど、その子にプレゼントをあげたいの。でも何をあげたらいいかわからなくて。いい物も売っていないんだもん……………それで…どうしようかな…って…もう時間もないの……………」

はあ… ため息をつく蘭。

そんな蘭を横目に、その男の子はニヤツと笑って、
「プレゼント、ってさ。買うものだけがプレゼントじゃあねえだろ？自分で作るとか、何かを見せるとか。そういうのもいいんじゃないね

えか？きつと喜ぶぜ！」
と言った。

「そっか…買ったプレゼントじゃなくてもいいのか…そっか…！！
分かったよ！ありがとう！……えっと、あなたの名前…」

ポン！

「え…？」

「やるよ！この花！」

その男の子が手から出したのは、赤いバラ。

「今…どうやって…マジック？」

「そう！俺マジシャン目指してんだ！俺の名前は………」

あの日まで、あと4日。

あと4日（後書き）

もう5月ですねえ…

春ですねえ……

評価お待ちしております！

あと2日

やっぱり、作るって言ったたらケーキよね！

蘭は簡単なおかずなどは作ったことがあったが、ケーキを作ったことはなかった。

しかし図書室にあったお菓子作りの本にいろいろなケーキの作り方が載っている本があったので、それを借りてきて作ることにした。

作ることにしたケーキは、フルーツケーキ。

色とりどりで、春らしいケーキだ。

材料は明日買う。

作るのは、あの日、の午前中。

渡すのは、あの日、の3時。

予定は完璧…

だが、一つだけ心配なことがあった。

新一の親が、新一のためにケーキを買っちゃってたら……
ケーキ2個もいらないって言われちゃったら……

困る!!!!!!!!!!!!!!

新一のお母さんに言わなくちゃ!

大急ぎで新一の家へ行った蘭。

新一の家へ行くと、有希子がちょうど庭に出ていた。

「どうしたの、蘭ちゃん?大急ぎで……」

「あ、あのっ……実は……」

「分かったわ。そういうことなら、新ちゃんに私たちからケーキをあげるのはやめにするわ。他にプレゼントも用意してあるしね。それで、その日の何時に来てくれるのかしら？」

「3時には、間に合うように持ってきてますっ！」

「了解。それじゃあ楽しみにしてるわね」

「ありがとうございます！……じゃあ、さようなら！」

（蘭ちゃん、かわいいわねえ……蘭ちゃんと新ちゃんが結婚してくれればいいのにな……）

帰っていく蘭の背中を見ながら、ポツリと有希子はそんなことを考えた。

「おい、母さん！」

新一がもうダッシュでやってきた。

「あら新ちゃん。どうしたの？」

「今……蘭何て言ってた？！」

こういうことは秘密にしとくべきね、と瞬時に思った有希子は、

「女のヒ・ミ・ツよ」

と言ってウインクをした。

「ヒミツってなんだよ！！蘭、俺に何か隠してんだよ……」

「女の子には秘密にしたいこともあるのよ」

ハミングをしながら家に帰っていく有希子。

「お、おいっ！教えるよ……！」

あの口まで、あんな口。

あと2日（後書き）

質問があるのですが、蘭の両親ってばいつ離婚したんですか？
蘭が中学生くらいのころですかね…???

評価・感想、お待ちしております！

Today is...

5月4日.....

世間ではGWの帰省ラッシュがなんとかかんとか、と騒ぎ始めている。

だけど蘭にはそんなことは全く関係ない。

朝7時に起床。まずは簡単な朝ごはんを作る。平日は小五郎が作っているが、休みの日は蘭の仕事なのだ。

それから小五郎を起こしに行き、一緒に朝ごはん。

その後、小五郎が探偵事務所に行ったら.....

ケーキ作り開始!!!

ケーキの作り方が不安だったので、だいたいの作り方やアドバイスは【ポアロ】の主人に聞いておいたし、材料は昨日のうちに買った。ケーキのラッピング方法もかんがえてある。

なので思っていたよりもスムーズに作れ、11時にはほとんど完成した。

あとはトッピングだけ...

(ポアロの主人が言った。トッピングは、特に気持ちをケーキに入れなくちゃいけない。うて。【新一おめでとう】っていう気持ちを、このケーキに入れなくちゃ……………)

イチゴにキウイに、ミカンにブルーベリーもちよっと使って。色とりどりのチョコスプレーも使って…

そしてケーキの真ん中に飾ってあるのは……………

【新一、誕生日おめでとう！】と書いてあるチョコ板と、昨日ポアロのマスターと作った、マジパンでできたホームズの帽子。

自分で言うのも変だけど、すごく上手にできたかも……………

12時に再び小五郎と昼ごはんを食べ、1時にラッピングをした。そして2時に家を出て、新一の家へと向かった。

そのころ新一は、有希子に【家の前に出てなさい!】と言われ、何がなんだか分からないまま外に出た。

「はは〜ん。今日は俺の誕生日だから、何か企んでるんだな、母さん達……」

そんなことを考えながらサッカーボールを蹴る。

ふと新一が道路の方を見ると、蘭がこっちに向かってるのが見えた。

「ら……蘭?!」

「あ、新一!」

その時!

蘭は新一の方を見ていたせいで、足が絡んで転んでしまったのだ!

すぐに蘭のそばに駆け寄る新一。

「らー……んツツ!!!!大丈夫か?!」

「だ……だいじよぶ……」

そう言つて顔をあげた蘭だったが、蘭の顔は傷だらけ。鼻血は出るわ、頬が擦り傷だらけだわで、とても大丈夫とはいえなかった。

「おめー…顔から転んだのかよ？どうして手を突かなかつたんだ？！」

「だ、だって、手を出したら…手を出したら、これが…」

傷だらけの顔を少し赤らめながら、蘭は新一に手に持っていた箱を渡した。

「これ…これって…」

箱を開けた新一はビックリした。中身は、「新一、誕生日おめでとう！』と書いてあるチョコ板とホームズの帽子を中心に、色とりどりのフルーツと生クリームのケーキだったのだから。

「これ…これ…俺のために…？」

「うん！あたしが一生懸命作ったんだよ！おいしいか分かんないけど、食べてね…！」

………新一、本当に誕生日おめでとう…！」

と、最高の笑顔で微笑みながら蘭は言った。

「……………」

「どうしたの新一？顔赤いよ？」

「うるせえっ！夕日のせいだよ…！」

「嘘だあ！だってまだ夕日なんて出てないもの！
今度はくすくす…と笑って微笑む蘭。

「ありがとな。蘭…」

顔が真っ赤なまま、ちよつとそっけなく新一は言った。

「どういたしまして、新一！それじゃあね」

そのまま蘭は走り去っていった…。

(俺…蘭のこと、本当に好きなんだな………)
もらったケーキを覗いて、新一は微笑んだ。

(俺が一番欲しかったのは、おめーの笑顔だよ、蘭……ありがとな！)

Today is... (後書き)

今日は新一の誕生日ですよおお！.....！！！！！！
一体何歳になったんでしょうね？
もう30歳はこえてるんじゃない.....笑

とにかく、小学生時代の蘭と新一ストーリー、いかがだったでしょ
うか？

感想&評価お待ちしております！

ななじゅうごでした

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8780b/>

あの日まで.....

2010年10月22日00時43分発行